

## 大会検証委員として思うこと

虚心流居合剣法 山本 勇

まずは、ご挨拶申し上げます。私は、平成二十六年十二月十六日付で、武道執行専門委員の委嘱を受け、平成二十七年二月八日から二日間、この重責を承ることとなりました。修行中の私としましては、身に余る大役と恐縮致すところではありますが、委嘱を承ったからには、微力ながらも出来る限りの努力をしなければと覚悟を新たにしているところであります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、平成二十七年四月二十九日に行われました第五十三回全国武徳祭において、私は、検証委員として大会進行に参加させていただきました。参加するにあたり、私は、検証委員としての心構えのうち、次の二点を特に強く意識しました。第一点目は、各先生方が雑念なく集中して演武に入れますよう質的規範、礼節規範を阻害する事象を見逃さないようにすること、第二点目は、安全管理を全うすることでありました。

私の検証立会時を申しますと、先生方の真剣な演武と節度ある観衆の姿勢で何ら問題なく演武は進行されていたと思います。一度だけ、見学者の安全を図るために、椅子から立ち上がって、見学席の整理に当たることがありました。この時、私は、検証委員が席を離れてもよいものか、見学席の整理は他の者が当たるべきではなかったかと感じ

ておりましたところ、次の検証委員として待機されていた委員が、事態を察して、すかさず私の椅子に座っていただいたのです。さすがでした。結果として、検証委員間の連携が上手くなされたこととなりましたが、反省として、急変時に備えて、更なる慎重な心構えと配慮の必要性があるのではないかと思われました。

その他の具体的な内容としては、ボードに委員の氏名と割当時間、待機者の氏名が貼りだされていたのは、進行上、分り易く大変良かったのではないかと思います。

以上思うところを書かせていただきました。次回の第五十四回大会は世界大会と聞き及びます。自らは、武道を正しく学ぶべく努力を重ねると共に、一般社団法人大日本武徳会の益々の発展と来年度世界大会の成功を祈念致します。

## 「武道執行専門委員」をお受けして

戸山流居合道 大藪 美代子

大日本武徳会創立百二十周年記念・第五十三回全国武徳祭は天候にも恵まれ清々しい新緑の中で行なわれ、演武者の気迫に満ちた演武を拝見し、改めて日々の練習の大切さを痛感しました。

武道執行専門委員をお受けして礼儀作法等、会員の手本になるようにと言われましたが、まだまだ未熟で見習うことの多い私にとっては